

『蒸す目』

作：前島宏一郎

『正午』 あらすじ

就活中の女子2人。

試験で与えられたペーパーにはこんな課題が。

「もしも私がいま死ぬのだとしたら。」

不安定な世界に生きる女子二人は、いかにこの答えを出すのか。

出会ったばかりのふたりは、夏の記憶とともに旅に出る。

『蒸す目』 登場人物表

A	チハル	(女)
B	コウ	(女)

※「WANIMA」については、演じるキャストにとって印象に残る曲に差し替えて構いません。

(会議室のような部屋に2人の女子が座っている。1
枚のペーパーを手にしてふさぎ込んだ様子。)

A・B

「もしも私がいま死ぬのだとしたら。」

(間)

あ…すみません。

…すみません。

私、しゃべってました？

いえ。

すみません。

すみません。

(間)

しゃべっていいですか？

えっ？

いいんですかね？

…(周りを見回す)

いい、ですよね。

…多分。

どう、思います？

…

これ(ペーパーを差し出す)。

…うーん…

しゃべっていいですか？

…どうぞ。

「もしも私がいま死ぬのだとしたら。」

…

…(Bの顔を覗き込む)

もしも、私が、いま、死ぬ、の、だとしたら。

(間)

どう？

…

これから、明るい未来の待っているー新社会人に対してな
にこのお題。

…

…おかしくない？

…うーん。

あつ、もしかして、この部屋の様子をどっかでモニターし
てるとか、実はそれがほんとに試験だったりとか。

…

…考えてた？

…一応。

…どんな？

…

A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A

あ、私、チハル。
…サカイです。
サカイさん、えっ、考えてた？
…一応。
どんな？
…それは、それで、仕方ない。かな。
え？
えっ？
何が？
え…
いやいや、何が？
いや、いいんです。
いやよくないし。私たちこれから明るい未来の新社会人で
すから（仮）。ブフオって感じだけど。
…
えっえっ？聞いていい？
…
よくない感じ？でもさこれがモニターされてたらさほら
さ、そんなんじゃないやダメでしょー。
…まあ、
わかった。じゃあお互いに1つずつ、つてことで。
1つずつ？
そうそう。私はチハル。有吉。22歳。
…
はい。

B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B

…サカイ、コウ。23歳。
へー！！
えっ？
すごい！年上！見えなーい！
そう、ですか？
そしてコウ！コウ！しぶっ！
え？しぶい？
シブサワコウって感じ！
え。誰？
私織田信長大好きなの。信長の野望。
え、わかんない。
まあいいや。コウちゃん。
サカイでいいです。
そういわずに。はい。
…
…
…え？
1つ。何でも。
えっ…
いいから。
……星座は？
乙女座！
…うん。
コウちゃんは？
えっ……同じ。

A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A

だよー！

だよ。

なんなのこの質問？それで何を書けど？

何書けってんだろーね？

いやさ、身近な人が死んだとかだったらまだ何となくわかるけどさ、ウチはおじいちゃんもおばあちゃんも元気だしさ。

うん。

コウちゃんとは？

うん、同じ。

だよねえ。どうしろっつーの。

ね。

ね、兄弟は？

え？

兄弟。

…有吉さんは？

チハル。

…うん。

チハルって呼んで。

…

いいから。

うん。

うちは2人。兄。もてない兄。

…

コウちゃんは？

B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B

…同じ。

えっホント？

同じ。

これがもてないのよなんていうかまあ要するにオタクみたいな感じでそれ以上にまず外見がダメでせめて平均クラスになるように男らしくすればいいんだけどさそういうのがないんだよね。

…うん。

コウちゃんとは？

…うん、同じ。

…うん。

うん。

え？

え？

ねえコウちゃん。

はい。

テキスト言ってる？

…うん。

そう？

うん。

じゃあさ、夏休みの宿題は、すぐにやっちゃう派？8月31日にやる派？

…

どっち？

有吉さんは？

B A B A B

みなさん。
みなさん。
もうすぐ、下校時刻です。
もうすぐ、下校時刻です。
気をつけて、帰りましょう。

A B A B A B A B A B A B A

チハル。
コウちゃんはどこち？
…8月31日。
…すぐにやっちゃおう。
…私も！
…ちよつと。
…
テキトー言ってる？
言ってるないよ。
じゃ何？
私も、そうになりたい。
え？…

(間)

(夕暮れの校舎の狭い放送室のよう。
A・B、マイクをはさんで、少しずつ向かい合っている。)

A B A B A B A B A B A B A B A B A B A B A

気をつけて、帰りましょう。
もうすぐ、夏休みも終わりです。
もうすぐ、夏休みも終わりです。
もうすぐ、終わりです。
もうすぐ、終わりです。
この夏は、どんな思い出がありましたか？
この夏は、どんな思い出がありましたか？
海。
海。
とけてくアイス。
とけてくアイス。
虫の声。
虫の声。
家族旅行。
家族旅行。
家族旅行。
家族旅行。
珍しい集合写真。(ケイタイを取り出す)
珍しい集合写真。(ケイタイを取り出す)
10いいね。
11いいね。
11いいね。
12いいね。
13いいね。
もっともつといいね。
学校の図書館。
学校の図書館。
静まり返った廊下。

B 静まり返った廊下。

A 蒸し風呂の放送室。

B 蒸し風呂の放送室。

A そっと入れたスイッチ。

B そっと入れたスイッチ。

(A・B、スイッチを手取る。手が触れ合う。)

A・B 忘れてしまった夏を思い出す。

B ラジオ体操。

A から帰ってきた後の夏の朝。

B すぐに夏休みの宿題をやっちゃう。

A みたいな、そんなぞくつとするような背徳感。

A・B もう戻れない、もう変えられない。ひんやりとしたあの夏。

A これが全部。

B これが全部。

A ウソだしたら。

B ウソだしたら。

A いま私が経験してきた、身につけてきた、私の全部が、全部ホントは大事な思い出でもなんでもなかったとしたら！

B ……なかったとしたら…

A 私は…

B 私は…

A どこから始めよう？

A どこから…

B ……もうすぐ、夏も終わりです。

A ……終わりです。

B だから…

A だから…

B 「もしも私がいま死ぬのだとしたら。」

A 私は君に何を伝えよう。

B 私は君に何を伝えよう。

A いまここで出会ったばかりの君に。

(A、ケイタイを眺める。)

A ……素敵な写真。これ、どこ？

B ……

A ……いいね。

B ……

A ……知ってる。

B ……

A これ、知ってる。滝。けっこう山の中のさ、こう、360度じゃないや180度くらいこうだーって滝なんだよね。

B ……

A これも知ってる。海。電車を1回乗り継いで1時間半。そこから歩いて15分。昔はもつと砂浜が白かったって広かったっておばあちゃんが言ってた。

A B

：
これも知ってる。学校の図書館。夏休みだけど涼しくて、
インテリさんが勉強してるかと思えばほとんど寝てる。

B

：
これも知ってる。静まり返った廊下。インスタ映えより素
敵な色。

B

：
これも知ってる。蒸し風呂の放送室。

A

：
そっと入れたスイッチ。

B

：
思い出した。

A

：
思い出した。

B

：
忘れてしまった夏を思い出す。

A

（A、マイクのスイッチを入れる。）
全校生徒のみなさん！もうすぐ下校時刻です！気をつけ
て、帰りましょう！もうすぐ夏も終わりです！たくさん思
い出がありました！でもいいことばかりじゃないよね！
この夏も家族旅行に行きました！でもきつと最後だと思
います！別にもう大人だし名字変わったってイヤでもないけ
どでもなんか今までの自分を全部リセットするみたいでな
んかいい気分ではないわけです！だから私はこの夏と一緒
に自分を一回捨てたいと思います！大学へ行ったら新しい

B A B A B A B A B A

生活！新しい友達！別にイヤじゃないけどどよんとした

自分はサヨナラして、キラキラした自分に絶対なる！大学
デビュー！私は、大人になって、キレイになって、新しく

なって、ラジオ体操から帰ってきたあとにすぐ宿題をやっ
ちゃうみたいな、悪いことしてるくらいいいことしてるみ

たいなそんなぞくつとした背徳感みたいな、そんな、素敵
な私になる。

だから、私は、夏とともに、私も終えて、放送を終了しま
す。

みなさん。さようなら。

（A、ケイタイを置いて奥へ。）

（B、ゆっくりとそのケイタイを手取る。）

：コウちゃん。

：チハル、さん。

：ホントに？

：うん。

ホントに、私が捨てた私を。

うん。

どうして？

どうして？

どうして…ほしかったの？

私は…

B

私は、試験に必要なだからといってはじめて市役所に行きました。コセキ、とうほんだかしようほんだか、どっちが正しいのか今もどっちかよくわかんないけど、窓口の人はそんな違いもわかんないんですかの顔して冷たかった。そんな些細なことでもブラックになるような小さい自分は新しく社会に出ればちよつとはマシにならないかななんてそんな程度だった。そこに書いてあったのは：

A・B

民法817条の2による裁判確定日。平成10年9月11日。

B

へんな胸騒ぎがした。

A

民法817条の2による、

B

やたらに重々しい裁判の文字。

A

裁判確定日。

B

いったい私の誕生日に何があったのか。(ケイタイをいじる)

A・B

特別養子縁組。

A

とは、実の父母との血族関係は終了し、養親が養子の法律上の実の父母となります。

B

私は、養子だった。

(間)

脳みそがぐるぐる。

A

ふつう養子なら養子って書いてあるんじゃないの？

特別って何？

B

ググればググるほど脳みそがとろけていく。

A

女だから養女でしょってなんかロリっぽいみたいそんな程度にはとろけてた。

B

調べれば調べるほど見える事実。

A

私の家族は、私の家族じゃない。

(間)

B

え、なんで？ホントの親は何してんの？ていうか捨てられたってこと？てかお母さんもお父さんも何も言わないわけ？いやじゃあ2人ともわかっててフツーなわけ？たしかに多分優しい両親だったし不登校気味なのも特に文句は言わなかったし人並みにフツーだったし何それ。全部ウソ？脳みそとろけて気持ち悪。私を産んだお母さんは私にウソを生きること望んだの？私の記憶のたぐさんのいいねがどんどん減ってゼロになって、いいねのかわりにウソが1になって2になって3になってどんどんどんどん増えていつて脳みそもぐるぐるになってとろけていつて。だから私は決めたんだ。あの夏休みの蒸し暑い放送室。そこに捨てられていた誰かの過去。あー。これ。これを、私にしようって。もう、そうすれば、この嘘が、また、いいねに変わるかな、って。

(B、マイクのスイッチを入れる。)

B

全校生徒のみなさん。もうすぐ下校時刻です。気をつけ
て、帰りましょう。もうすぐ夏も終わりです。たくさんの
思い出がありました。でももう終わりです。人間は6年で
からだの細胞が全部入れ替わって、他人になるの。同じよ
うに、この世界も少しずつらされていって、知らないうちに
私のものじゃなくなっているのになって。だから私は…と
りあえず、…全部、全部、捨てることにします。そして、
他の、誰かになる。ぎゅーって、ならなくて、すむよう
に、私に、なる。(ケイタイを手に取ろうとする)

(A、Bの手を取る。)

!

(間)

…同じ。

…えっ？

同じ。

…テキスト言ってる？

…ううん。

そう？

そう。

…

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

A

B

会いに行こうよ。

…？

お母さんに。

は？

わ…

わ…

わ…

わ…

わ…

忘れてしまった夏を思い出す。

(音楽)

(A・B、マイクのスイッチを入れる)

皆さん、この夏は、どんな思い出がありましたか？

たくさん、

たくさん、

いいねがもらえましたか？

もうすぐ夏も終わりです。

もうすぐ夏も終わりです。

宿題は終わりましたか？

まだなら、

まだなら、

会いに行こうよ。

ガタンゴトン。

ガタンゴトン。

ガタンゴトン…(続く)

B 電車のガタンゴトンと一緒に、私のナカミも揺れ動く。ガ
A タンゴトン。ガタンゴトン。…（続く）
B ぐぐつてみたら、その裁判なんちゃらは、自分のルーツを
A 追えるように書かれているんだって。
B ガタンゴトン。
A 遠い。遠くてもいい。なんかどきどきする。ガタンゴトン
B …
A そつと戸籍の奥の奥に閉じ込められていた秘密の箱を開け
B るような、ぞくつとした…
A 背徳感。
A・B ガタンゴトン…
B 遠い。遠いからいい。なんかくらくらする。ガタンゴトン
A …
A・B ガタンゴトン。
B 電車で1回乗り継いで。
A 電車で2回乗り継いで
B 電車で3回乗り継いで
A・B ガタンゴトン。ガタンゴトン。
A どきどきしながら。
B くらくらしながら。
A・B ガタンゴトン。ガタンゴトン。
B 途中でアイスを食べました。
A 5分でとけた。すぐにとけた。
A 私の脳みそガタンゴトン。
B ひんやりとした。

A ガタンゴトン。
B とろけた脳みそ。
A ガタンゴトン。
B もう戻れない。もう変えられない。ひんやりとしたあの
A 夏。
B チハルさん。
A ガタンゴトン。
B いえーい。
A・B （ポーズで自撮り）パシヤリパシヤリ。
A アイスの向こうに海。フォトジェニックに…
B パシヤパシヤリ。
A 大学に行つて佐々木になつて。やつと私はデビューした。
B パシヤパシヤリ。
A きらきらつとした自分がそこに、写っていると思つた。
B キラキラリ。
A バイトにかまけて単位を落としてあー大学生だななんて。
B キラキラリ。
A やっぱり誰かが隣りにいてほしくてほんとに大切な人。
B キラキラリ。
A 今度はホントの恋だと思つたこの人は奥さんがいたり。
B キラキラリ。
A 人生80年だとしたら、あとどれだけこんな思いを繰り返
B していくんだろつて。たくさんたくさん撮つた写真はいつ
A も笑っているのにね。

A・B

ウソじゃない。ウソじゃないんだきらきらとしたこの顔は。ガタンゴトンと揺れる私は、私じゃない私と、海の向こうのアイスの向こうのあの蒸し風呂の放送室で、そっと入れたスイッチの、あのスイッチに手をかけた時に、すぐ目の前にいたような…そんな気がした私の目は…あの部屋のように蒸していた。暑くて、流れ落ちるような。

「もしも私がいま死ぬのだとしたら。」…

私は君に、何を伝えよう。

今ここで出会ったばかりの、

その目をしている君に。

プシュー。

A

(A・B、電車を降りる。)

(A・B、ゆつくりと周りを見回す。)

(A・B、一歩踏み出す。母の家と思しき家の前。)

…(Bを見る)

…(Aを見る)

ドンドンドン(ノック)。

(間)

ドンドンドン(ノック)。

A

A B A

(間)

(A・B、なんとなくうつむく。)

(間)

(A・B、はっとして視線を上げる。)

(A・B、小さく「お母さん」と口が動く。)

(B、やや泣きそうな面持ちで何度か頷く。)

(B、少し前に歩みかけるが、止まり、小さく会釈する。)

(A・B、並んで電車の中。吊革につかまっている。)

(A・B、黙って揺られている。)

(つぶやくように) ガタンゴトン。

(つられるように) ガタンゴトン。

ガタンゴトン。

ガタンゴトン。

B A B A

(A、一歩下がる。)

ガタンゴトン…

彼女は、向き合ったふたりは、全く同じような、こう、…
…顔をしていた。彼女は、選ぶように、二言三言、声を
かけ、彼女は、ただ、うなづいていた。そして、ふたりの
目は、湿り気を含んだ視線は…離れた。

(A、ゆっくりとマイクの前に座る。)

皆さん、こんにちは。

佐々木、チハルです。

「もしも私がいま死ぬのだとしたら。」

…

(割り込むようにBがマイクの前に。)

ドライブ！

！……うん！

(音楽。)

そう！取ったばかりの免許でドライブに行こう！
ちよっと運転危なっかしい！

A

B

A

A・B

しようがないでしょ！なに運転する？

しなーい！

何かける？

W A N I M A ! いえーい！ (自撮り)

(A・B、これからしたいことを次々と好き勝手に口
にし続ける。音楽が大きくなりふたりの声をかき消
す。)

END

